

# 26 農村女性の育成

## ～若い担い手女性の組織化に向けて～

■ 若い担い手女性、みとよ若嫁ファーム ■

(西讃農業改良普及センター ○宮川三千代、馬場優子 )

### ●対象の概要

三豊市の認定農業者は、平成27年3月末現在242名で、そのうち女性の認定農業者は23名（共同申請含む）である。また、補助者として農業経営改善計画書に記載されている年間150日以上農業に従事している50歳以下の女性は約40名である。

### ●課題を取り上げた理由

農業に従事している農業者の約半数は女性であり、農村社会における様々な役割を担っているにも関わらず、農業経営及び農村社会における女性の立場や評価は十分とは言えない。そのような中でも、自ら就農あるいは結婚を契機に農業や農村社会に関わることになった若い女性は少なくない。

県では、生活改善対策事業等を活用して継続的に農村女性を支援してきたが、ここ数年、若い担い手女性への働きかけが十分ではなかった。

そこで、三豊市担い手育成総合支援協議会と連携し、組織化を目的に若い担い手女性の支援を推進することとした。

### ●普及活動の経過

#### 1 対象者の掘り起し

普及支援体制の変容や市町・JAの広域合併等により、若い女性農業者の情報収集が難しくなっている。点在する若い女性農業者を知るために、農業経営改善計画書の構成員名簿から50歳未満の女性農業者を抽出した。平成23年度から、三豊市担い手育成総合支援協議会と連携し、各種研修会等を企画し、文書を持参して直接案内することにより、対象者の実態把握に努めた。

#### 2 研修会・視察研修等の開催や参加誘導

すでに施設ブドウ栽培者の担い手女性グループ「西讃あぐりグループ」が組織化され、定期的

に活動を実施していたが、そこに若い担い手女性の参加を呼びかけた。また、県や市と連携した研修会等への参加を誘導した。

主な研修会等の内容は以下のとおり。

年度	支援の内容	場所
H24	①担い手女性視察研修 農マル園芸、グループ全国大会	岡山県総社市 岡山市
	②三豊市若い女性研修会 バリエーションの素材へのこだわり 三豊産フルーツを使ったスイーツ作り	三豊市山本町
	③パートナーシップセミナー 農業と取組む子育て世代の生活設計のポイント	普及センター
H25	①お母さんの技術を学ぼう！講座 農産加工と郷土料理の伝承	三豊市
	②パートナーシップセミナー 子育て世代のライフプランの考え方	普及センター
H26	①みとよ若嫁ファーム結成	
	②販路拡大・6次化研修会	普及センター
H27	①三豊市農業女子研修会 決算書からわかること ライフプランを考える	豊中町
	②特産品開発等研修会(夏・冬)	仁尾町 普及センター



研修会の様子

#### 3 家族経営協定の推進と経営参画促進

経営移譲を迎える農家に対し、円滑な移譲につながるよう、家族経営協定の締結と認定農業者

の共同申請制度を推進した。若い担い手女性や後継者が我が家の経営の中で役割分担が明確になり、就業条件が整備されることで、農業への意欲や参画が進むよう支援を行った。

表－1 家族経営協定締結数・  
認定農業者の共同申請数

年度	新規 締結数	女性の 共同申請数
H23	9	5
H24	4	1
H25	10	9
H26	7	2
H27	4	2
計	34	19

#### 4 意識調査の実施

女性の経営参画への実態を把握するため、意識調査を実施した。家族経営協定締結・共同申請をしている農家（後継者との共同申請も含む）の女性（複数いるところは後継者世代）にアンケート用紙を配布、返信用封筒にて回収したところ、47戸のうち34戸の回答があった。

その結果を見ると、共同申請により、共同経営者としての位置づけが女性の経営参画を後押しするケースもあるが、それが十分機能されていないケースもあるように見受けられたので、今後、十分な聞き取り調査等を行う必要であると感じた。

### ●普及活動の成果

#### 1 「みとよ若嫁ファーム」の結成

以前から、市やセンターの研修会等に何回か参加していたメンバーは、お互い連絡を取り合うなど、ネットワークができつつあった。そこで県の若い農業者育成事業を活用し、組織化を支援し、新規就農者4名を含む7名で「みとよ若嫁ファーム」が結成された。1年目は販路の拡大を目標に、統一感のあるのぼりやパンフレット、エプロン等販促資材を揃え、県の農業フェアや地元の軽トラック市等のイベントに出展した。2年目は新規会員を2名掘り起し、新商品等の開発を目標にモモやナシ、ミカン等の瓶詰技術を習得したり、新商品につながる試作を

実施した。



みとよ若嫁ファームのメンバー

#### 2 女性農業者のPR、認知度アップ

女性だけの農業者グループは少ないためか、市の広報で取り上げられたり、取材も増えた。マスコミ等のおかげで、農業を職業として頑張る女性のPRが容易にできた。また、研修会での事例発表や農業新聞等の連載記事を引き受けるなど、自らの言葉で自らの思いを語る場を経験することにより、会員の資質向上につながった。

#### 3 協力者の理解促進

三豊市には女性の農業委員が4名おり、平成26年度より、6次化を目指す農産物規格外講座を開催している。最初は人数を集めることに満足を感じていたが、開催内容や農業委員の役割等を検討していくうちに、若い担い手女性の育成の必要性を感じるようになった。地域の若い担い手女性に積極的に声をかけ、参加を誘導するとともに、意見交換の中では助言をしたり、地域の相談役としての役割を果たすようになった。

### ●今後の普及活動の課題

国においては、「女性活躍推進法」が成立し、農業分野でも女性が活躍しやすい環境の整備が求められている。女性の活躍とは、「女性が農業経営体に就農することで、女性自身が持てる能力を無理なく十分発揮でき、意欲を持ち、やりがいを実感しながら継続して働くことができること」「社員として、または、経営陣としての経済的対価が得られ、社会的にも認められる存在であること、さらに、キャリアアップの道が開かれ、自己実現できること」等を意味しており、女性農業者の意識改革とより一層の経営参画を推進していくことが必要である。